

平成19年11月23日（金）、熊本市国際交流会館において、熊本県民の方を対象に「くまがわ・明日の川づくり報告会」が開催されました。

同報告会には、約40名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

質疑の際には、下記のとおりご意見等をいただきました。

参加者数※

県内	42名
県外	1名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問

【河川整備基本方針の説明について】

- ・基本高水流量、計画高水流量、影響河道流量をどのような計算方法で出したか、計算式を出して欲しい。
- ・人吉の現況流下能力は3,600m³/sと言っているが、実績としては溢れることなく5,600m³/s流れている。
- ・知事は、森林の保水力に関して、新しい検討結果が出た時は、基本高水流量の考え直しができるのか（小委員会）で質問していたが、これについて回答願いたい。
- ・住民討論集会では単位図法での計算について説明していたが、どうして急に貯留関数法になったのか説明して欲しい。
- ・小委員会の委員に森林水文学の専門家が一人もいなかったはずである。専門家がないのに、なぜ概ね妥当という結論になったのか理解できない。
- ・森林の保水力も40年前から比べれば木も育っているので増していると思うが、小委員会に専門家を入れて検討されたのか。
- ・小委員会の議事録は全て氏名を伏せている。無責任な議論は認めることはできない。
- ・小委員会の委員長は水資源公団の責任者だった。国土交通省と利害関係のある組織の人が委員長をするような委員会は公正であるかどうか疑問。検討小委員会をもう一回ゼロからやり直して欲しい。
- ・河川分科会で知事に冒険に近いような発言が多々出ている。品位に欠けるような会議は認めるわけにはいかない。
- ・河川整備計画を策定した後も、今回のような大規模な説明会の考えがあるか。
- ・砂防えん堤や流路工を整備していることと、（基本方針の中で示している）魚道等の改良や整備により縦横断的な連続性の確保に努めるということは矛盾していないか。
- ・説明を聞く前に質問する人を通告してくれというのはおかしいのではないか。
- ・熊本県では住民討論集会があり、膨大な時間が費やされた。その時の国交省の主張から今回の基本方針はがらっと変わっている。討論集会での治水議論は何のためだったのか。反対側の人達に検証する時間を与えて議論し、結論を出すべきではないか。報告会は国交省が自分達の主張が正しいと押し付ける場になっているのではないか。
- ・計画降雨継続時間について、球磨川と同時期に同じ小委員会委員のメンバーで検討された佐賀県の嘉瀬川、鹿児島県の肝属川は2日間雨量でよいとなっている。どこに球磨川との違いがあるのか。
- ・（報告会での説明などで）被害が出た時の写真だけを繰り返し使うのは公平ではないのではないか。いかにも、今こういう（危険な）状態にあると感じる。
- ・H18年7月には12時間で440mm以上の雨が降っているのに人吉で4,000m³/sしか流れなくて、洪水は起きなかった。また、砂利を1mとってもらったから洪水は起きなかった。
- ・市房ダム2,000m³/s、川辺川ダム5,000m³/sの非常放水で7,000m³/sになる。その前に4,000m³/sが川で流れていると11,000m³/sになる。人吉は全滅してもいいというのか。
- ・森林の保水は200mmは止めると言っているが、（森林は）1,400億トン溜める。ダムと同じ貯水量。
- ・川内川流域の雨が降ったらという確かめ算はおかしい。
- ・現在人吉で3,600m³/sしか流れないというが、H17年9月には5,360m³/s流れたと書いている。
- ・人吉層については、周り何mかに巨大なコンクリートを打ってそこに砂利を敷けばいい。

- ・引提だけではダメ、堤防の嵩上げだけでは流れないと説明されたが、いろんな方策を組み合わせた検討をしていない。複合的な方策を組み合わせれば川辺川ダムを造らなくても治水はできるのではないか。
- ・時間も限られていて双方向ではない説明の仕方では説明責任を果たしたというのは間違い。
- ・報告会での意見は整備計画にどういふふうに反映されるのか。意見が反映される仕組みについて教えて欲しい。
- ・国土交通省本省やいわゆる学識経験者・専門家と地元住民で望む治水はとて隔たっている。この隔たりをどのように埋めるつもりか。
- ・報告会の質疑で国交省は「ダムについては白紙」と説明している一方で、国土交通大臣はダムを造りたいと国会で述べている。整合性は一体どこにあるのか。

【球磨川の治水対策について】

- ・川辺川ダム上流の砂防えん堤の目的の一つが、川辺川ダムへの堆砂防止にあると理解しているが、川辺川ダム砂防事務所によると、それは直接の目的では無いとのことだった。しかしながら、川辺川ダム砂防事務所の回顧録である「砂防事業 25 周年の歩み」に、初代所長の発言として、堆砂容量の一部を受け持たせることもあって直轄砂防事業をやりはじめたという記載がある。明らかにダム堆砂防止のために砂防ダムを造るというふうに読める。このことについて明確な回答をしてもらいたい。
- ・八代は加藤清正が造ったという堤防に守られて400年、大水害は起こっていない。河川敷を埋め立てて市街地にするなどしたために、大水害が起こるのではないかと思う。
- ・川辺川ダムはいらない。これまでの水害は河川管理の不備によるものだ。大きな工事予算を取るということは止めてもらいたい。常識的にやらねばならないことをやって欲しい。
- ・川辺川ダム計画を断念して欲しい。冬柴大臣が国会で説明していたS40年洪水の死者6名のうち、(球磨川での洪水による)死者は市房ダム放水被害での犠牲者1名だけである。こうした事実を大臣は知っていたか。
- ・H18年7月の神瀬冠水は、(球磨川に流入する)支流の出口を2m砂利除去すれば防げたのではないか。わざと水が出るように出口に砂利を高く盛り上げている。
- ・穴あきダムは流木で穴が塞がり決壊するのではないか。白川水害は、子飼橋の橋げたに流木がダム状となり、兩岸が決壊したために1,000人以上の犠牲者が出た。
- ・(川辺川ダムについて)多目的ダム法による建設理由は完全に消滅したのではないか。今までの建設費は、返還すべきではないか。
- ・立野ダムも無駄。川辺川ダムも、拡幅、砂利撤去だけで洪水は防げるという住民が多い。それでもダムを造りたい理由は何か。
- ・人吉橋の下流にわざと洪水になるように、家が何軒か立ったままにしてある。
- ・人吉の山田川の球磨川への出口のところと中川原公園を取れば7,000m³/sも簡単に流れる。
- ・河川整備計画で、最終的な河川整備のあり方を検討するのは、地域住民が行うべきであると思うが、その際に、地域経済の持続性をどう図っていくという観点がとても大事だと思う。これまで、川辺川ダムについて、漁師の方々が強固に反対するのは、横断工作物ができると川が状況が悪化していったことを実感されているからだと思う。一体これまでに建造物を造ることによって、どれだけの経済面でのマイナスを与えたかという計算が足りていない。川の豊かさが地域経済にどれだけの活力をもたらしてきたのかを数字で把握し、地域住民に示しながら、地域として河川をどう整備していくかを話し合える場・材料を確保して欲しい。
- ・洪水常襲地帯と言われる中流域の球磨村、芦北町、八代市坂本町でも報告会が開催されたが、川辺川ダムを求める声は一つも出ていない。球磨川流域で水害がひどくなったのは、荒瀬ダム、瀬戸石ダム、市房ダムができてから。これ以上、ダムを造って欲しくないというのが流域住民の願いである。ダム以外の治水対策を早急に実施すべき。
- ・川辺川ダム計画のせいで不幸になった人は数えればきりが無い。熊本県民を不幸にする川辺川ダム計画は早急に撤回して欲しい。

【球磨川の環境について】

